平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 2 ※記入不要	提案機関名	農業振興課

要望問題　春キャベツの生育、収穫期予測技術の確立

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

キャベツの生育予測技術については、諸々の研究成果が発表され実際に活用されている事例も見られるが、その精度については満足できるものではない。これまで生育予測に利用されてきた生育ファクターとしては主に気温データのみであったが、現在は県下各地に気象観測網の整備が進み、気温データにしてもリアルタイムに収集できる上、日照時間、日射量、雨量等より詳細なデータの入手が可能となった。また、ほ場ごとの地温、地表付近気温など微気象についても小型安価な観測装置（データロガ）の使用が可能となり、これら総合的なデータを加味したより精度の高い生育予想技術の確立、実用化が求められる。
本要望では､年次による生育収穫期の変動が激しい春キャベツについて検討をお願いしたい。

この技術が確立した場合、産地の適正な生産出荷の実施と消費者に対する安定供給に貢献出来る。また、設定した定点、または農家自身で、ほ場にデータロガを設置し、簡便に生育、収穫期予測が実施できるようになり、個々の事情に応じた計画的な生産出荷とほ場の有効活用が可能となる。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	三浦試験場
部　　署：	三浦試験場
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 特産野菜の生育診断及び生育制御技術の確立

対応の内容等

冬から春にかけての気象変動は、温度、日照、降水量とも毎年変化が大きく、春キャベツの生育状況も例年一定でないのが現状です。生産予測技術を確立するためには生育データと気象データの集積が必要です。今後各データの集積を図り、生産予測技術確立に向けての検討を行う予定です。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	